

若手研究者コラムリレー

岩沼 聡一郎 (いわぬま そういちろう)

プロフィール

帝京科学大学教育人間科学部学校教育学科 講師
(公財)スペシャルオリンピックス日本 理事
日本体育学会の専門領域:
アダプテッド・スポーツ科学/バイオメカニクス

岩手県生まれ

2006年弘前大学教育学部 卒業

2011年早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修了 博士(スポーツ科学)
(独)日本学術振興会特別研究員、早稲田大学スポーツ科学学術院助手を経て、現職

E-mail: s-iwanuma@ntu.ac.jp



教員を目指す学生たちと一緒に、ラインテープ貼り

わたしの研究

障害のある人もない人も、 スポーツを通じて、アクティブに！

- ・スポーツをすることで、エネルギーを消費する、骨や筋肉に刺激を与える、気分がよくなる、仲間ができる etc. スポーツで得られる様々な嬉しいことは、障害のある人もない人も等しく得られるものであるはず・・・。
- ・私の研究対象は主に知的障害のある人たちです。経験的に、知的障害のある人は10～20年程度、障害のない人よりも老化が早いと言われてきました。確かに、死亡年齢は比較的低く、50代で運動器に問題を抱えて介護が必要となることも少なくありません。「それはなぜ?」「どうしたら解決できる?」
- 「それはなぜ?」・・・実態調査をしています。
- ・知的障害のある人たちの体力・運動能力や運動器の状態が、加齢とともにどのように変化するのか?
- ・知的障害のある人たちの運動・スポーツの実施状況には、どのような背景があるのか?
- 「どうしたら解決できる?」・・・実践、効果検証をしています。
- ・知的障害のある人たちが運動・スポーツをしやすくなる環境とは?
- ・知的障害のある人たちが運動・スポーツで得られる効果は?
- ・スポーツを通じた知的障害のある人となない人の交流(実践)
- ・知的障害のある人たち向けのスポーツプログラムの開発(実践)
- ・知的障害のある人たちにスポーツを指導するコーチの育成(実践)

最近「知的障害者のサルコペニア予防」に向けた研究を中心に取り組んでいます。障害の有無に関係なく、子どもも高齢者も、アクティブな日々を送ることができるときの研究に興味があります。研究分野にこだわらず、興味のある方のご連絡をお待ちしています。

わたしの渾身の論文・書籍・記事

岩沼聡一郎, ほか. 成人知的障害者におけるロコモティブシンドロームの危険因子と運動実施状況の関連性. 2016年度 笹川スポーツ研究助成報告書. 106-112, 2017.

(なんでも帳)

ジョン・グレン

高齢の宇宙飛行士が、無重力環境下で身体がどのように変化するのか。中学生のときに、この挑戦をテレビで見たことが、スポーツ科学の世界に興味を持つきっかけとなりました。

スペシャルオリンピックス

知的障害者スポーツ団体。大学生の時から、アルペンスキーのコーチ等をしています。最近では、知的障害のある人となない人が、一緒にスポーツをするユニファイドスポーツの普及に力を入れています。

東北

大学卒業まで暮らした故郷。東日本大震災を機に、研究者として自分が何に取り組むべきか悩みました。そして、現在の研究テーマになりました。(ちなみに、東北楽天ゴールデンイーグルスのファンです)

ココ・ファーム

知的障害のある人となない人が共に働く、ワイナリー。一人ひとりに役割があり、高齢になっても、個々の状態に見合う役割で務めます。こんなインクルーシブなモデルをスポーツでも実現したいです。(でも、私は日本酒党です)

○次回のコラムリレーは、帝京大学の「中澤雄飛」さんを予定しています。

日本体育学会若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育学会若手の会が発足しました！

→メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPa5fY3kcB5a2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taikugakkaiwakate@gmail.com (担当: 木村)

